



積極的〇〇主義

【問題】「積極的〇〇主義」の「〇〇」の部分に現在の社会状況を踏まえて何か語句を入れ、それに対する自分の考えを論じなさい。

＊

土・日はセンター試験である。それが終わると私立大の入試が続き、その後、いよいよ国公立大学の二次試験となる。日比谷で人気の慶応では、ほとんどの学部で小論文が必要になるし、国公立の2次試験は、記述式であるのは当然として、例えば医学部などでは小論文や面接を課す大学も多い。さらに、後期試験ともなれば、ほぼ記述式である。

というわけで、小論文と格闘することが多くなるわけだが、小論文を書くためには「書くべき内容」を自分の中に貯めておかなければならない。試験場にいる自分の中から書くべきことを引き出さなければならないわけで、どこかに書くべきことが転がっている訳ではないのである。(小論文の指導をしていると、日比谷生のレベルでは、文章の書き方といったレベルの指導はほとんど必要なく、主としてテーマの選び方やその効果的な提示の仕方といったことが指導の中心になる…)。

それ故、これからの1年間で、どれだけたくさん「書くべきこと」を自分の中に蓄積できるかが勝負になってくる。蓄積するためには、先ず当然のことながら授業を大切にすることだ。何度も書いてるように、知識はネットワーク化して力を発揮するわけだから、例えば医学部の小論文で、世界史で学習したヨーロッパに於けるペストの流行を話題にしてみたり、法学部の小論文に、情報で学習し

た著作権に関する最新の考え方を述べたりすることができるようになれば、しめたものである。

もう一つは、日常生活の中で、自分の興味のある分野に関する話題に積極的にアプローチすることである。具体的には、新聞(紙媒体でもいいし、スマホなどからのネット媒体でもよい)やテレビニュースを活用することだ。今後は、ぜひ勉強の合間に、新聞やニュースに親しむようにしてほしい。意識して親しむのとそうでないのとでは、いざ小論文の課題を目の前にした時に、大きな差となることを忘れずに。

＊

さて、冒頭の問題。例えば医学系では「積極的遺伝子治療主義」とか「積極的移植主義」といった語が、工学系なら「積極的自然エネルギー活用主義」vs「積極的原発推進主義」、法学系なら「積極的死刑廃止主義」…

安倍政権は「積極的平和主義」を掲げているが、この語はもともと「米の歴史・法学者クインシー・ライト氏が「戦争研究」(1942年)の中で「消極的平和」と対に使ったのが始まり。その後ノルウェーの平和学者ヨハン・ガルトゥング氏が「戦争のない状態」を消極的平和としたうえで、暴力や貧困、差別もない状態を積極的平和と定義し、その意味で広まったという」(朝日新聞1月15日朝刊)。安倍首相の唱える「積極的平和主義」が、この語を狡猾に利用しただけのものであることがよく分かるだろう。ニュースを通してこういう視野も身につけてほしいものだ。